

ADL 3軸判断シート

医療 / 介護の二択ではなく「目的 → 責任 → 場」で整理する

ADLそのものに「医療 / 介護」の所属はありません。今のADLを何のために見ているかを整理し、重視する視点をそろえます。

STEP 1 目的 | このADLから、何を判断したいですか？

- ☐ 治療経過・動作の変化を確認する
- ☐ 安全性・リスクを判断する
- ☐ 退院・生活移行の準備をする
- ☐ 生活の成立・継続条件を確認する
- ☐ 介助量・支援方法を調整する

STEP 2 責任 | この情報を、誰が次の判断・調整に使いますか？

- ☐ 医師・看護師・リハ職が治療 / リスク管理に使う
- ☐ 本人・家族が生活方法の選択に使う
- ☐ 介護職・ケアマネが支援条件の調整に使う
- ☐ 多職種で共通認識をつくる

STEP 3 場 | どこで、どの条件で成立する必要がありますか？

- ☐ 評価・訓練場面
- ☐ 病棟
- ☐ 自宅
- ☐ 施設
- ☐ その他 ()

最終整理：いま重視する視点

- ☐ 治療・評価の視点を主にする
- ☐ 生活支援の視点を主にする
- ☐ 両方を分けて記録・共有する

記録・共有メモ

できるADL（評価・訓練で可能なこと）

しているADL（普通の生活で実際に行っていること）

成立条件（手すり・見守り・時間帯・環境・介助者など）

次の判断・調整（訓練 / 支援 / 環境 / 再評価など）

注意：場所だけで「医療 / 介護」を決めない / 「医療 = 改善、介護 = 維持」と固定しない / 3軸は法令上の公式分類ではなく、多職種で視点をそろえるための実務整理